

関係機関各位

神奈川県健康医療局保健医療部精神保健医療担当課長  
(公印省略)

旧優生保護法に関する一時金支給手続き等の周知について (依頼)

本県の健康医療行政の推進につきましては、日頃格別の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成 31 年 4 月 24 日に、「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」が成立し、公布・施行されました。

つきましては、このたび厚生労働省と連名で、一時金の支給に関するリーフレット等を作成しましたので、県民の方へ周知していただきますよう、お願い申し上げます。

また、各医療機関・福祉施設・市町村におかれましては、一時金の対象となる方の記録を保有している可能性がある場合、法律に基づき別途県から調査を依頼することがありますので、その際は御協力をお願いします。

加えて、各医療機関におかれましては、医師の診断の結果が記載された「旧優生保護法一時金支給請求に係る診断書」の作成を、対象となる方から依頼された際には、御協力をお願いします。

なお、調査及び診断書の作成に係る詳細は、下記 URL を御覧ください。

URL : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/yuse-iryo.html>

問合せ先

がん・疾病対策課精神保健医療グループ 小林

電話 (045) 663-1250 (専用) または

(045) 210-1111 内線 4729

ファクシミリ (045) 210-8860

# 旧優生保護法による優生手術などを受けた方へ

- 平成31年4月24日に、議員立法により「旧優生保護法一時金支給法（以下「法」という）」が成立し、公布・施行されました。
- 法の前文では、旧優生保護法の下、多くの方々が、生殖を不能にする手術・放射線の照射を受けることを強いられ、心身に多大な苦痛を受けてきたことに対して、我々は、それぞれの立場において、真摯に反省し、心から深くおわびする旨が述べられています。
- 法に基づき、優生手術などを受けた方に一時金を支給いたします。

## 1. 一時金の対象となる方について

以下の①または②に該当する方で、現在、生存されている方が対象となります。

- ① 昭和23年9月11日から平成8年9月25日までの間に、旧優生保護法に基づき優生手術を受けた方（母体保護のみを理由として手術を受けた方は除きます）
- ② ①のほか、同じ期間に生殖を不能にする手術または放射線の照射を受けた方（母体保護や疾病の治療を目的とするなど、優生思想に基づくものでないことが明らかな手術などを受けた方を除きます）

## 2. 一時金の請求手続きについて

- ・ お住まいの都道府県の窓口に請求書を提出してください（郵送による提出も可能です）。
  - ・ 請求書や添付書類（診断書・領収書）の様式は、厚生労働省のホームページに掲載しているほか、都道府県のホームページや窓口などでも入手できます。
  - ・ 請求期限は、平成31年4月24日（法律の施行日）から5年以内です。
- ※ 請求書の記載事項や添付書類については裏面をご覧ください。

## 3. 一時金の金額

- ・ 一時金の額は、320万円（一律）です。
- ・ 支給決定後、ご指定の金融機関の口座に独立行政法人福祉医療機構から振り込まれます。

## 4. お問い合わせ先

### <神奈川県 旧優生保護法に関する一時金支給受付・相談窓口>

電話番号 045-663-1250（専用）または 045-210-4727 FAX 045-210-8860

問合せフォーム <https://shinsei.e-kanagawa.lg.jp/kanagawa/uketsuke/dform.do?acs=SF1383>

受付時間 8:30~17:15（月曜日から金曜日。土日祝日、年末年始を除く。）

所在地 横浜市中区日本大通7 日本大通7ビル2階  
健康医療局保健医療部がん・疾病対策課内

### <厚生労働省 旧優生保護法一時金相談窓口>

電話番号 03-3595-2575 FAX 03-3595-2753 メールアドレス [ichijikin@mhlw.go.jp](mailto:ichijikin@mhlw.go.jp)

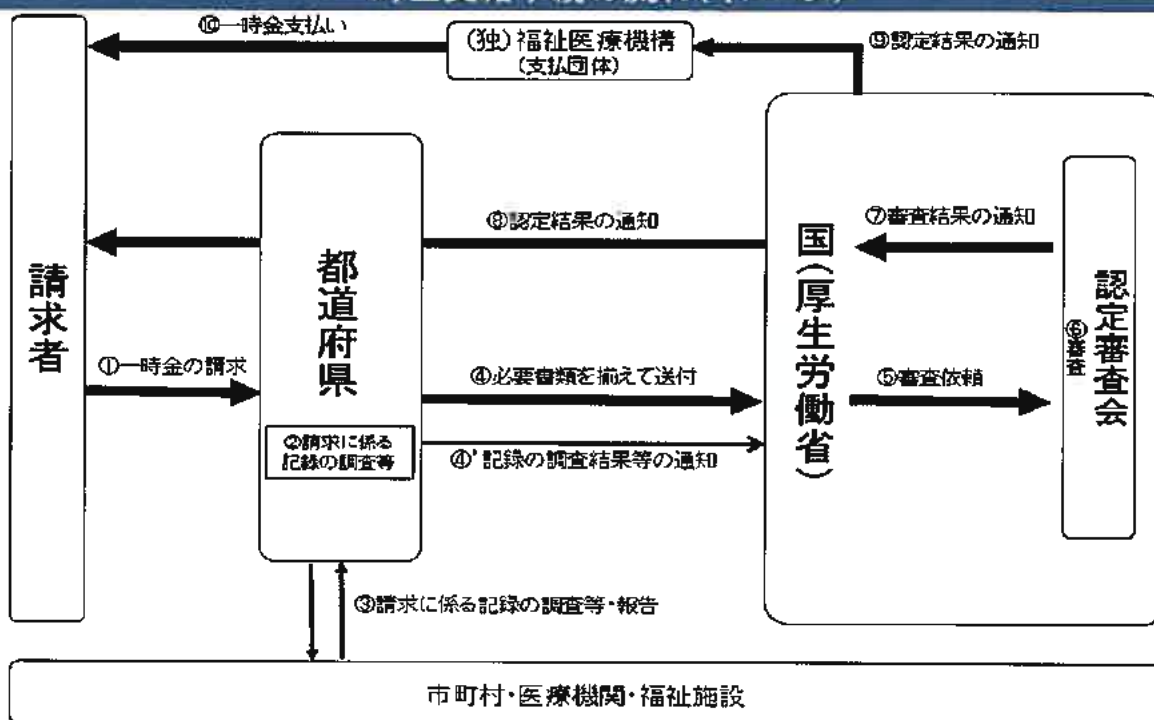
受付時間 9:30~18:00（月曜日から金曜日。土日祝日、年末年始を除く。）



## 請求書の記載事項や添付書類について

- 請求書には、様式に沿って、優生手術などを受けた医療機関の名称及び所在地、手術などを受けた年月日（時期）、手術などを受けるに至った経緯などを記載して下さい。
- 請求書を提出する際には、以下の資料を添付してください。
  - ・住民票の写しなど請求者の氏名、住所又は居所を証明する書類
  - ・現在、優生手術などを受けた際の手術痕が残っているかどうかについての医師の診断書（特に優生手術などを実施した記録が残っていない場合には、一時金支給認定にあたっての重要な資料になりますので、可能な限り請求書とあわせて提出してください。）  
※心理的ストレスが大きいなど医療機関の受診が困難な場合には、添付を省略することが可能となりますので、都道府県の窓口にご相談ください。
  - ・上記の診断書の作成に要する費用が記載された領収書など（一時金の支給が認められた場合、診断書作成費用が支給されます）
  - ・一時金の振込みを希望する金融機関の名称及び口座番号を明らかにすることができる書類（通帳やキャッシュカードの写しなど）
  - ・その他請求に係る事実を証明する資料（例：障害者手帳、戸籍謄本、関係者の陳述書、都道府県や医療機関等から入手した優生手術等の実施に関する書類など）

### 一時金支給手続の流れ(イメージ)



※ 上記の流れは、現在居住している都道府県内で手術を受けていた場合。現在居住している都道府県以外で手術を受けていた場合は、請求は、現在居住している都道府県に対して行い、調査等については、国(厚生労働省)からの通知を受けて、手術を受けていた都道府県が実施。

※ 請求者が、記録等により一時金の支給対象者に該当することを確認できる場合には、⑤～⑧は省略。